

2024 年 11 月 10 日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒481 番（MK 姉）

『ああ嬉しわが身も』

聖書⇒ルカによる福音書 14 章 15~24 節（MM 姉）

『食事を共にしていた客の一人は、これを聞いてイエスに、「神の国で食事をする人は、なんと幸いなことでしょう」と言った。そこで、イエスは言われた。「ある人が盛大な宴会を催そうとして、大勢の人を招き、宴会の時刻になったので、僕を送り、招いておいた人々に、『もう用意ができましたから、おいでください』と言わせた。すると皆、次々に断った。最初の人、『畑を買ったので、見に行かねばなりません。どうか、失礼させてください』と言った。ほかの人、『牛を二頭ずつ五組買ったので、それを調べに行くところです。どうか、失礼させてください』と言った。また別の人は、『妻を迎えたばかりなので、行くことができません』と言った。僕は帰って、このことを主人に報告した。すると、家の主人は怒って、僕に言った。『急いで町の広場や路地へ出て行き、貧しい人、体の不自由な人、目の見えない人、足の不自由な人をここに連れて来なさい。』やがて、僕が、『御主人様、仰せのとおりにいたしました。まだ席があります』と言うと、主人は言った。『通りや小道に出て行き、無理にでも人々を連れて来て、この家をいっぱいにしてくれ。言っておくが、あの招かれた人たちの中で、わたしの食事を味わう者は一人もいない。』』

礼拝讃美歌⇒461 番（旧 128 番詞）

『聞けおとずれ』

聖書⇒創世記 1 章 1、3、6、9、11 節（SK 兄）

『初めに、神は天地を創造された。

神は言われた。「光あれ。」 こうして、光があった。

神は言われた。「水の中に大空あれ。水と水を分けよ。」

神は言われた。「天の下の水は一つ所に集まれ。乾いた所が現れよ。」

神は言われた。「地は草を芽生えさせよ。種を持つ草と、それぞれの種を持つ実をつける果樹を、地に芽生えさせよ。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 1 章 1~3 節

『初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。この言は、初めに神と共にあった。万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 3 章 16 節

『神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。』

< 祈 >

礼拝讃美歌⇒456 番（旧 200 番）（KH 兄）

『カルバリ山の十字架』

《パン裂き》

聖書⇒マタイによる福音書 26 章 26~30、39 節（KH 兄）

『一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えながら言われた。「取って食べなさい。これはわたしの体である。」また、杯を取り、感謝の祈りを唱え、彼らに渡して言われた。「皆、この杯から飲みなさい。これは、罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。言っておくが、わたしの父の国であなたがたと共に新たに飲むその日まで、今後ぶどうの実から作ったものを飲むことは決してあるまい。」一同は賛美の歌をうたってから、オリーブ山へ出かけた。

少し進んで行って、うつ伏せになり、祈って言われた。「父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願いどおりではなく、御心のままに。』

（式）

礼拝讃美歌⇒142 番（旧 58 番）

『渡されたもう』

《建徳》

聖書⇒マルコによる福音書 6 章 1~6a 節 (KH 兄)

『イエスはそこを去って故郷にお帰りになったが、弟子たちも従った。安息日になったので、イエスは会堂で教え始められた。多くの人々はそれを聞いて、驚いて言った。「この人は、このようなことをどこから得たのだろう。この人が授かった知恵と、その手で行われるこのような奇跡はいったい何か。この人は、大工ではないか。マリアの息子で、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄弟ではないか。姉妹たちは、ここで我々と一緒に住んでいるではないか。」このように、人々はイエスにつまずいた。イエスは、「預言者が敬われないのは、自分の故郷、親戚や家族の間だけである」と言われた。そこでは、ごくわずかの病人に手を置いていやされただけで、そのほかは何も奇跡を行うことがおできにならなかった。そして、人々の不信仰に驚かれた。』

礼拝讃美歌⇒98 番 (旧 187 番) (KH 兄)

『馬槽の中に』

《建徳要旨》